ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-1	調査位置				北　緯	36 ° 40 ’ 02.0000 ”
発 注 機 関	栃木県烏山土木事務所			調査期間	2010-01-26 ～ 2010-01-28	東　経	140 ° 07 ’ 48.0000 ”
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	101.29 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 45.00 °	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具	
総 掘 進 長	6.05 m								エンジン		ポ ン プ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	100.94	0.35	0.35		コンクリート	暗灰			玉石練積み護岸。φ20cm玉石，以下CN。		
1	100.09	0.85	1.20		シルト混り砂礫 (GS-M)	暗茶灰			堤体盛土材。礫はφ10～50mm主体。 上部-1.0m付近までシルト多く混る。 全体に緩い締まり具合である。		
2					軟岩 (WR)	暗褐灰			新第三紀中新世の凝灰質砂岩で、風化・変質が岩芯まで進み風化土状を呈す。 褐色化し、岩質は極めて軟質である。		01/26 2.39
						暗緑灰			[2.00]-2.0m付近より暗緑灰色に変化し、強風化岩状を呈す。 風化が進み岩質は軟質であるが、徐々に堅硬度を増す。		
3	98.29	1.80	3.00		軟岩 (WR)				新第三紀中新世の凝灰質砂岩で、概ね新鮮である。		
4						暗緑灰			岩質は概ね堅硬緻密で、10～50cmの柱状コアを主体とする。 コアの表面は粗・滑らかの級化層理が不等間隔でみられる。 密着した亀裂が疎らにみられる。		
5											
6	95.24	3.05	6.05								01/27 6.05

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	3	3	4	10／30	10
1.45					
2.15	13	25	12／4	50／24	>50
2.39					
3.15	50			50／10	>50
3.25					
4.15	50／5			50／5	>50
4.20					
5.00	50／5			50／5	>50
5.05					
6.00	50／5			50／5	>50
6.05					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						01/26
						01/27